

ベクトル 入試の基本

()組()番 名前()

1

(1) $\vec{a} + \vec{b} = (4, 3)$, $\vec{a} - \vec{b} = (2, -1)$ のとき, $\vec{a} = (\text{ア}, \text{イ})$,
 $\vec{b} = (\text{ウ}, \text{エ})$ であり, $2\vec{a} - 3\vec{b}$ の大きさは オ である。

(2) $\vec{a} = (3, 2)$, $\vec{b} = (1, -1)$, $\vec{c} = (12, -2)$ のとき,
 $\vec{c} = \text{カ} \vec{a} + \text{キ} \vec{b}$ であり, $\vec{a} + t\vec{b}$ と \vec{c} が平行となるとき $t = \text{ク}$ である。
また, $s\vec{a} - \vec{c}$ と \vec{b} が垂直となるとき, $s = \text{ケコ}$ である。

(3) 座標空間上に3点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 2, 1)$, $B(-2, 2, 4)$ がある。
線分 AB を $2:1$ に内分する点を C , $2:1$ に外分する点を D とすると,
 $\vec{OC} = (\text{サシ}, \text{ス}, \text{セ})$, $\vec{OD} = (\text{ソタ}, \text{チ}, \text{ツ})$ である。
また, 点 $E(x, 4, -2)$ が3点 O, A, B を含む平面上にあるとき, $x = \text{テ}$ である。

2

△ABCにおいて、AB=5, BC=6, CA=7とする。

∠Aの二等分線と辺BCとの交点をDとすると、 $\vec{AD} = \frac{\text{ア}}{\text{イウ}} \vec{AB} + \frac{\text{エ}}{\text{オカ}} \vec{AC}$ である。

また、∠Bの二等分線と線分ADとの交点をIとすると、AI:ID = キ :1であるか

ら、 $\vec{AI} = \frac{\text{ク}}{\text{ケコ}} \vec{AB} + \frac{\text{サ}}{\text{シス}} \vec{AC}$ である。

△ABCの重心をGとすると、 $\vec{AG} = \frac{\text{セ}}{\text{ソ}} \vec{AB} + \frac{\text{タ}}{\text{チ}} \vec{AC}$ である。このとき、 \vec{GI} と

\vec{BC} は平行であり、 $|\vec{GI}| = \frac{\text{ツ}}{\text{テ}}$ である。

3 [改訂版数標準プラン100 センター本試(改作)]

△OABにおいて、辺OAを2:1に内分する点をC、辺OBを3:4に内分する点をDとする。また、直線BCと直線ADの交点をEとする。

- (1) \vec{OE} を \vec{OA} と \vec{OB} を用いて表したい。次の**方針1**または**方針2**について、ア
 ~ ク に当てはまる数を求めよ。

方針1

BE:EC = t:(1-t), AE:ED = s:(1-s) とすると

$$\vec{OE} = \frac{\text{ア}}{\text{イ}} t\vec{OA} + (1-t)\vec{OB}, \quad \vec{OE} = (1-s)\vec{OA} + \frac{\text{ウ}}{\text{エ}} s\vec{OB}$$

と表せる。 \vec{OE} の \vec{OA} , \vec{OB} を用いた表し方はただ1通りであることから、s, tの値を求める。

方針2

$\vec{OE} = x\vec{OA} + y\vec{OB}$ とすると

$$\vec{OE} = \frac{\text{オ}}{\text{カ}} x\vec{OC} + y\vec{OB}, \quad \vec{OE} = x\vec{OA} + \frac{\text{キ}}{\text{ク}} y\vec{OD}$$

と表せる。点Eは直線BCかつ直線AD上の点であることから、x, yの値を求める。

方針1 または **方針2** を用いると、 $\vec{OE} = \frac{\text{ケ}}{\text{コサ}} \vec{OA} + \frac{\text{シ}}{\text{ス}} \vec{OB}$ である。

- (2) 座標平面上において、2点A(21, 0), D(0, 15)を通る直線と2点B(0, 35),

C(14, 0)を通る直線の交点Eの座標は $\left(\frac{\text{セソ}}{\text{タ}}, \text{チ} \right)$ である。

4 [改訂版数標準プラン100 センター本試(改作)]

a を正の数とする。三角形 ABC の内部の点 P が $a\overrightarrow{PA} + 2\overrightarrow{PB} + \overrightarrow{PC} = \vec{0}$ を満たしている

とする。このとき、 $\overrightarrow{AP} = \frac{\text{ア}}{a + \text{イ}} \overrightarrow{AB} + \frac{\text{ウ}}{a + \text{エ}} \overrightarrow{AC}$ である。

直線 AP と辺 BC との交点を D とすると $\frac{BD}{DC} = \frac{\text{オ}}{\text{カ}}$ であり、点 P が線分 AD を

$3:1$ に内分するとき、 $a = \text{キ}$ である。

さらに、 $|\overrightarrow{AB}| = 2$ 、 $|\overrightarrow{BC}| = 2\sqrt{7}$ 、 $|\overrightarrow{AC}| = 4$ であるとする、 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = \text{クケ}$ 、

$|\overrightarrow{AP}| = \text{コ}$ である。

5

三角錐 $OABC$ について、 $\overrightarrow{OF} = \frac{1}{4}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{4}\overrightarrow{OB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OC}$ を満たす点 F を考える。また、
 辺 OB の中点を M 、辺 OC を $3:1$ に内分する点を N とし、直線 OF と平面 AMN の交点を P とする。

(1) $\overrightarrow{OF} = \frac{1}{\boxed{\text{ア}}}\left(\overrightarrow{OA} + \boxed{\text{イ}} \cdot \frac{\overrightarrow{OB} + 2\overrightarrow{OC}}{3}\right)$ であるから、点 F は、辺 BC を

$\boxed{\text{ウ}}:1$ に内分する点を D としたとき、線分 AD を $\boxed{\text{エ}}:1$ に内分する位置にある。

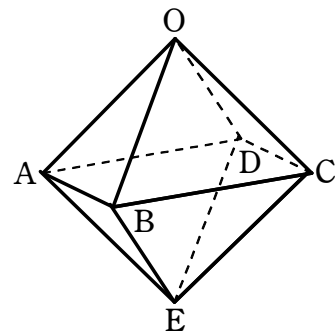
(2) 点 P は線分 OF 上にあるから、 $\overrightarrow{OP} = k\overrightarrow{OF}$ ($0 < k < 1$) と表される。

また、点 P は平面 AMN 上にあるから、 $\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + l\overrightarrow{AM} + m\overrightarrow{AN}$ と表される。

したがって、 $\overrightarrow{OP} = \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カキ}}}\overrightarrow{OA} + \frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケコ}}}\overrightarrow{OB} + \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シス}}}\overrightarrow{OC}$ である。

6

1 辺の長さが 1 の正八面体 OABCDE を考える。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$, $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とする。



(1) $\overrightarrow{OD} = \boxed{\text{ア}}$, $\overrightarrow{OE} = \boxed{\text{イ}}$ である。

$\boxed{\text{ア}}$, $\boxed{\text{イ}}$ の解答群

(同じものを繰り返し選んでもよい。)

- | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| ① $\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}$ | ② $-\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}$ | ③ $\vec{a} - \vec{b} + \vec{c}$ |
| ④ $\vec{a} + \vec{b} - \vec{c}$ | ⑤ $\vec{a} + \vec{b}$ | ⑥ $\vec{a} + \vec{c}$ |
| ⑦ $\vec{b} + \vec{c}$ | ⑧ $-\vec{a} + \vec{b}$ | |

(2) $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \frac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}}$, $\vec{a} \cdot \vec{c} = \boxed{\text{オ}}$ である。

(3) $\triangle OAB$, $\triangle BCE$, $\triangle CDE$, $\triangle OAD$ の重心をそれぞれ P, Q, R, S とすると,

$\overrightarrow{PQ} = \frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}} \vec{c}$, $\overrightarrow{PQ} \cdot \overrightarrow{PS} = \boxed{\text{ク}}$ である。

また、四角形 PQRS は長方形であるから、その面積は $\frac{\boxed{\text{ケ}} \sqrt{\boxed{\text{コ}}}}{\boxed{\text{サ}}}$ である。

7

先生と太郎さんと花子さんは、点 O を原点とする座標空間の 4 点 A (3, 0, 0), B (3, 6, 3), C (0, 6, 0), D (0, 0, 3) でできる図形について考えている。3 人の会話を読んで、(1), (2) の問いに答えよ。

先生：4 点 A, B, C, D のうちの 2 点を結んでできる線分の長さを調べ、4 点 A, B, C, D でできる図形について考えてみてください。

花子： $AB = \boxed{\text{ア}} \sqrt{\boxed{\text{イ}}}$, $BC = \boxed{\text{ウ}} \sqrt{\boxed{\text{エ}}}$ だわ。さらに、線分 CD, 線分 AD の長さも求めると、向かい合う 2 組の辺の長さがそれぞれ等しいから、4 点 A, B, C, D でできる図形は平行四辺形 ABCD ね。

太郎：でも、線分 AC と線分 BD の中点の座標をそれぞれ求めると、

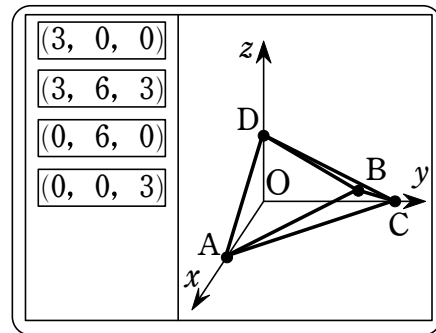
$\left(\frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}}, \boxed{\text{キ}}, \boxed{\text{ク}} \right), \left(\frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}, \boxed{\text{サ}}, \boxed{\text{シ}} \right)$ となって一致しないよ。

先生：よく気がつきましたね。ではコンピュータのソフトを用いて確認してみましょう。

太郎：4 点 A, B, C, D でできる図形は四面体だ！

花子：なるほど。座標空間では、4 点が同一平面上にあるかどうかも考えないといけないのね。

先生：その通りです。



(1) (i) $\boxed{\text{ア}} \sim \boxed{\text{シ}}$ に当てはまる数を求めよ。

(ii) 一般に、座標空間の異なる 4 点 P, Q, R, S について、条件「 $PQ = RS$ かつ $QR = PS$ 」は、4 点 P, Q, R, S でできる図形が平行四辺形 PQRS であるための $\boxed{\text{ス}}$ 。

$\boxed{\text{ス}}$ の解答群

- ① 必要条件であるが十分条件ではない
- ② 十分条件であるが必要条件ではない
- ③ 必要十分条件である
- ④ 必要条件でも十分条件でもない

(iii) 次の条件 a ~ d のうち、座標空間の異なる 4 点 P, Q, R, S でできる図形が平行四辺形 PQRS であることと同値な条件は 。ただし、4 点 P, Q, R, S は同一直線上にないものとする。

条件 a : $\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{SR}$ 条件 b : $|\overrightarrow{PS}| = |\overrightarrow{QR}|$ 条件 c : $\overrightarrow{PR} = \overrightarrow{QS}$ 条件 d : $\overrightarrow{PQ} \cdot \overrightarrow{PS} = 0$

の解答群

- | | | |
|-------------------|------------------------|---------------|
| ① a だけである | ② b だけである | ③ c だけである |
| ④ d だけである | ⑤ a と b だけである | ⑥ b と c だけである |
| ⑦ c と d だけである | ⑧ a と b と c だけである | |
| ⑨ b と c と d だけである | ⑩ a と b と c と d すべてである | |

(iv) 4 点 A, B, C, E でできる図形が、平行四辺形 ABCE となる時、点 E の座標は (, ,) である。

(2) 点 B から 3 点 A, C, D を通る平面に垂線 BH を下ろす。点 H の座標を求めよう。

H(p, q, r) とすると, $\overrightarrow{BH} \cdot \overrightarrow{DA} = \overrightarrow{BH} \cdot \overrightarrow{DC} = \boxed{\text{テ}}$ であるから, $p = r$,

$q = \frac{r + \boxed{\text{ト}}}{\boxed{\text{ナ}}}$ である。また, $\overrightarrow{BH} \perp \overrightarrow{DH}$ より, $r = \frac{\boxed{\text{ニ}}}{\boxed{\text{ヌ}}}$ であるから, 点 H の座

標は $\left(\frac{\boxed{\text{ネ}}}{\boxed{\text{ノ}}}, \frac{\boxed{\text{ハヒ}}}{\boxed{\text{フ}}}, \frac{\boxed{\text{ニ}}}{\boxed{\text{ヌ}}} \right)$ である。

8

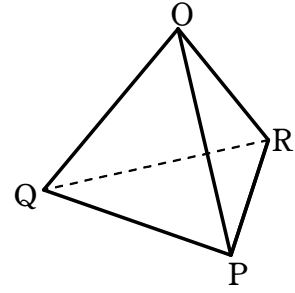
(1) 1 辺の長さが 2 の正四面体 OPQR を考える。辺 OP の中点を M とし、 $\overrightarrow{OP} = \vec{p}$, $\overrightarrow{OQ} = \vec{q}$, $\overrightarrow{OR} = \vec{r}$ とする。

(i) $\overrightarrow{MR} = \frac{\boxed{\text{アイ}}}{\boxed{\text{ウ}}} \vec{p} + \vec{r}$, $\overrightarrow{MQ} = \frac{\boxed{\text{アイ}}}{\boxed{\text{ウ}}} \vec{p} + \vec{q}$ であり、

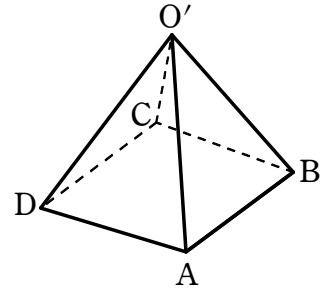
$\vec{p} \cdot \vec{q} = \vec{q} \cdot \vec{r} = \vec{r} \cdot \vec{p} = \boxed{\text{エ}}$ である。

(ii) $\overrightarrow{MR} \cdot \overrightarrow{MQ} = \boxed{\text{オ}}$ であるから、 $\angle RMQ = \alpha$ とすると、

$\cos \alpha = \frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}}$ である。



- (2) 1 辺の長さが 2 の正四角錐 $O' - ABCD$ を考える。
 ただし、正四角錐 $O' - ABCD$ の辺の長さはすべて等しいものとする。辺 $O'A$ の中点を N とし、 $\overrightarrow{O'A} = \vec{a}$, $\overrightarrow{O'B} = \vec{b}$, $\overrightarrow{O'C} = \vec{c}$ とする。



(i) $\overrightarrow{NB} = \frac{\boxed{\text{クケ}}}{\boxed{\text{コ}}} \vec{a} + \vec{b}$, $\overrightarrow{ND} = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}} \vec{a} - \vec{b} + \vec{c}$ であり、 $\vec{a} \cdot \vec{c} = \boxed{\text{ス}}$ である。

(ii) $\overrightarrow{NB} \cdot \overrightarrow{ND} = \boxed{\text{セソ}}$ であるから、 $\angle BND = \beta$ とすると、 $\cos \beta = \frac{\boxed{\text{タチ}}}{\boxed{\text{ツ}}}$ である。

- (3) (1) の正四面体 $OPQR$ と (2) の正四角錐 $O' - ABCD$ を、頂点 O , P , Q がそれぞれ頂点 O' , A , B に重なるように正三角形の面を重ね合わせた立体を考える。ただし、点 R と点 C が、その正三角形の面に関して反対側にあるものとする。

このとき、 $\angle RMQ + \angle BND = \boxed{\text{テ}}$ である。

したがって、この立体は $\boxed{\text{ト}}$ であることがわかる。

テ の解答群

- | | | | | | | | |
|---|------------------|---|------------------|---|------------------|---|-----------------|
| ① | $\frac{\pi}{6}$ | ② | $\frac{\pi}{4}$ | ③ | $\frac{\pi}{3}$ | ④ | $\frac{\pi}{2}$ |
| ⑤ | $\frac{2}{3}\pi$ | ⑥ | $\frac{3}{4}\pi$ | ⑦ | $\frac{5}{6}\pi$ | ⑧ | π |

ト の解答群

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | 九面体 | ② | 八面体 | ③ | 七面体 | ④ | 六面体 | ⑤ | 五面体 |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|